

平成29年度

病害虫発生予察特殊報(第1号)

平成29年4月12日

神奈川県農業技術センター

病害虫名：ハウレンソウベと病レース8およびレース10

病原名：*Peronospora farinosa* (Fries)Fries f.sp.*spinaciae* Byford

(Race8, Race10)

作物名：ハウレンソウ

1 発生経過

- (1)平成28年2月中旬に県東部の露地栽培ハウレンソウでハウレンソウベと病レース1~7に抵抗性を有する品種‘シールド7’にべと病の発生が認められた。
また、平成28年3月上旬には県東部の露地栽培ハウレンソウでハウレンソウベと病レース1~7に抵抗性を有する品種‘クロノス’にべと病の発生が認められた。
- (2)べと病の新レースの発生が疑われたため、当センター生産環境部から国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門へ検定を依頼したところ、‘シールド7’ではべと病レース10、‘クロノス’ではべと病レース8の発生が判明した。ハウレンソウベと病レース8およびレース10はこれまで本県では未確認である。

2 病徴および病原菌の生態

- (1)ハウレンソウベと病菌はレースによる病徴の違いはなく、はじめ下葉の表面に健全部との境界が不明瞭な黄白色の小斑点を生じる。
- (2)小斑は次第に拡大し淡黄色または淡紅色の不正円形の病斑となり、病斑部の裏側に灰色ないしは灰紫色の菌体を生じる(図1,2)。症状が進展すると株全体が黄化し枯死する。
- (3)病原菌は糸状菌の一種で卵菌類に属し、種子伝染および空気伝染する。

3 防除対策

- (1)べと病レース8、レース10に抵抗性を有する品種を利用する。抵抗性のない品種を本病の発病の恐れのある時期に作付する場合、薬剤による防除を徹底する。
- (2)発病後の防除は困難であるため、薬剤散布は発生前から予防的に行う。発病が見られた場合は、発病葉を取り除き、本病に対して有効な薬剤を下葉や葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。
- (3)多湿条件で多発するため、ほ場の排水や通風、採光を良好にする。また、葉が過繁茂になると発生が助長されるため、適切な肥培管理を行う。
- (4)発病株や罹病残渣をほ場内に放置すると次作の伝染源となるため、速やかに除去し、土中に深く埋めるなど適切に処分する。
- (5)ハウレンソウベと病に登録のある薬剤の例は表のとおり。防除の際は必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守する。



図1 ホウレンソウベと病の病徴



図2 病斑部葉裏に生じた菌体

表 ホウレンソウベと病に登録のある薬剤例

| 使用方法 | 薬剤名 | FRACコード |
|------|------------|---------|
| 土壌施用 | ユニフォーム粒剤 | 11+4 |
| 散布 | コサイド3000 | M1 |
| | ライメイフロアブル | 21 |
| | ランマンフロアブル | 21 |
| | アリエッティ水和剤 | 33 |
| | フェスティバル水和剤 | 40 |

品種によって薬害を生じることがあるので注意する

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
 〒259-1204 平塚市上吉沢1617
 TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>